（市指定無形民俗文化財）

動画を視聴できます

小内八幡神社（おうちはちまん）
青獅子（安源寺区）

❶右が親獅子で左が子獅子。❷肩車をした親獅子が提灯を落とす。多くの提灯が落ちると五穀豊穣につながるといわれている。❸、❹緊張した面持ちで赤獅子を舞う少年たち。❺伝統を感じる豊栄の舞。

安源寺の秋祭りに舞う青獅子の起源は、寛文５年（1665）の社殿再興祝賀祭のころから行われたといわれ、伊勢の御師（おし）系の芸能者から教わったものなどと伝えられています。

舞台での舞の演目は、少女が舞う「豊栄（とよさか）の舞」、少年が舞う「赤獅子」、青年が舞う「青獅子」へと続いていきます。青獅子は親が二人立ちの獅子、子が一人の演技者となり、親の獅子頭が板を２枚合わせた形で色が青いことから青獅子と呼ばれています。

赤獅子が終わり青獅子が始まると、その口と尾につけた煙硝の筒に火が付けられ、暗黒の舞台に火の波紋が激しく揺れます。煙が充満する中を左右する獅子の動きは、怪物の様相を呈し、観衆に固唾を呑ませます。

また、青獅子の獅子頭は板獅子系でほかに見られないもので、親獅子が肩車や横転など曲芸的なことも行う要素と併せ、歴史的に大変貴重なものです。

神社（データ）DATA

神社名：小内八幡神社
住所：安源寺 572 番地

自慢の伝統文化を残していきたい

【氏子総代長】
高見澤（たかみさわ）　武（つよし）さん

安源寺のお祭りは、私が小さいころは青森や秋田から馬が来て「馬市」などの市が開かれ、１週間ほど縁日行事が行われるなど、近隣地域の皆さんが楽しみにしていた大きな行事だったことを覚えています。

昔から伝統として受け継がれてきた文化であり、青獅子を見たいと来ていただく方もいることはとても自慢できることだと思います。ただ、今では人口の減少に伴い、舞い手が少なくなってしまっているので、人手を確保するのはとても苦労を感じました。青獅子の曲芸のような舞や迫力満点の花火は、ほかでは見られないものだと思うので、地域の皆さんの協力を得ながら、この自慢の伝統を残していきたいです。

（市指定無形民俗文化財）

日和山神社　鬼獅子

（草間・日和区）

動画を視聴できます

日和山神社で舞う迫力溢れる鬼獅子の舞―。この鬼獅子の起源について断定されてはいませんが、代々伝わる獅子舞の道具に天保年間の記載があったことから、天保年間（1830～44年）にはすでに獅子舞が行われていたのではないかと考えられます。

全体を通した獅子舞の所要時間は、約2時間40分であり、お囃子には三味線が使われ、「神楽」、「鈴神楽」、「持込神楽（ササラ）」、「鬼獅子」、「太刀神楽」、「伊勢神楽」、「正大神楽」の7つの舞が違ったストーリーを表現しています。なお、秋祭り当日は、その年に舞う内容をその中から選び、最後に鬼獅子の舞が行われます。

出てくる鬼は面を着けず、体中に赤や黒の化粧をし、手には金棒を持ち、腰に腰みのという衣装を身に着けます。鬼が出てくるのは、南信を除き全県的にも珍しく、怨声を発して飛び上がり獅子に立ち向かう場面は殺気すら感じ、会場は熱気に溢れます。

神社DATA

神社名
日和山神社
住所
草間616番地

❶2日目には「❷夜宮で大人が演じたササラの役」を子供たちが演じる。顔にはさまざまな模様が描かれ、緊張しながら出番を待つ。❸伝統のお囃子を守り継承する保存会の皆さん。

皆さんで協力しながら後世に伝えていきたい

【氏子総代長】
春原（すのはら）　勇（いさむ）さん

祭りを通してみて、人手を集めることや、祭りの道具を修理しながら大事に使わなくてはいけないことはとても大変でしたが、私たちにとって自慢の鬼獅子を、地域の皆さんの協力のおかげで無事に終えることができたので、今はとても達成感を味わうことができています。

鬼獅子は、舞う内容が毎年違い、その年でないと見ることができない舞があります。また、二日目には「ササラ」と呼ばれる役を子ども達が演じるなど、見どころがたくさんあるので、ぜひ直接見に来ていただき迫力を味わっていただきたいです。

この地域にとっての伝統芸能である鬼獅子を、地域のみんなで協力しながら後世に伝えていきたいです。